

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>今までの生活を大切に継続し、今までと相違なく買い物や慣わし事(初詣)などに参加できる地域の中で過す環境を提供している。</p>	<p>外出から戻る事で、帰る場=自宅という構図を描いて頂けるよう配慮し、また、地域行事の参加や商店での買物等で住み慣れる環境作りを目指している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>会議の場で理念・事業計画の浸透を図っている。</p>	<p>見やすい位置に理念を掲示し、日常的に浸透を図っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居前の説明等や家族会・運営推進会議にて生活への馴染みの活力を維持する為に地域との関わりが大切であると説明している。</p>	<p>地域の公的機関へ出向いた際、快く受け入れられている。ボランティアの方々と花壇も整備した実績がある。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常より近隣の人への挨拶・会釈を行い交流を図っている。</p>	<p>年末にはイルミネーションの装飾で地域の方々に好評を得ている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣の小学校の行事や地域で開催されるフェスティバルに率先して参加している。</p>	<p>園芸ボランティアの方の協力で花壇作りに取り組んでいる。近隣の自治会が開催しているふれあい喫茶へ参加し地域との交流を図っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>地域交流委員会に限らず、グループホーム独自でも地域に貢献出来ないものか検討したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>特にユニット職員会議では頻繁に本評価項目を振り返り、改善の糸口になるよう働きかけている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>特に地域交流に関わる事は熱を入れて聞き入れており、ご利用者が参加しやすい場を模索している。本会議を活かすためにも、委員の相互理解に努めたい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>頂いた助言を活かしながらサービスの質の向上に努めたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>権利擁護に関する制度等、法人内の研修にて学ぶ機会を確保している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>虐待防止に関する制度等、法人内の研修にて学ぶ機会を確保している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書や契約書に従いながら説明し新たに契約内容の追加や変更がある時には趣旨を説明し、理解して頂くよう心がけ不明・疑問点等がないか確認し理解・納得に努めている。</p>	<p>特に関心の高い、利用料金や長期入院時の説明には時間をかけて説明している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>オンブズマンや介護相談員の受け入れで外部へ表出する機会を設けている。また意見をユニット職員会議等で浸透させ改善している。</p>	<p>ご利用者の意見・訴えを発言できる場として1日に1度個別にコミュニケーションをとる環境、傾聴できる時間を設けるよう努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>状況に応じてその場で電話報告を行い面会時には様子報告し、家族の要望・意見を伺っている。毎月発行のご家族への手紙で日頃の様子を伝えている。</p>	<p>大きな人事異動等は、広報誌にも掲載しお伝えしている。日々の様子はご家族への手紙で報告出来ている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回のご家族説明会をはじめ、苦情解決担当者を設定し、常時、不満・苦情を受け付ける構えがある。また、毎月の施設内リーダー会議で、苦情や事故等の情報を全ユニットで共有し、再発防止に努めている。</p>	<p>ご家族が意見・相談できる雰囲気作りに努めている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月開催されるユニット職員会議であがった提案等は。同じく毎月開催している部課長会議で運営者や管理者に働きかける場を設けている。</p>	<p>職員が意見・提案を発言できる会議が環境作りに聞く姿勢を大切にしている。疑問点等があれば都度、傾聴し対応している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>課長、リーダーをはじめ正職員は柔軟な対応が出来るよう努めている。非常勤職員も自分から応援できる日時を申し出る等協力を得、勤務調整をしている。</p>	<p>ご利用者のみでなく職員の体調の変化に留意し常に対応できるよう勤務調整している。日々の勤務体制も状況に応じ柔軟な体制をしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職時には、ご利用者に不安を与えず業務の遂行を円滑に図れるよう細やかに引継ぎを行っている。</p>		<p>併設する特養や在宅部門との兼ね合いも考慮し極力ダメージを阻止したい。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外への研修には、積極的に参加しOJTへの意義も高く持っている。定期的に人事考課を行い自分自身で目標・計画をたて自己評価し、意識を高めている。</p>		<p>毎年年度初めには事業計画を立案し、人材育成の方針を示している。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>宝塚市で開催された兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会に参加し、同業者との親睦を図りながら情報交換に努めている。また、近隣の社会福祉協議会で介護技術の研修会を開催し、地域交流にも努めている。加えて、隣接する市や兵庫県内の他事業所の見学も随時受け入れている。居宅介護支援事業所からの問い合わせがあった際は、随時見学出来る旨説明し、情報開示</p>		<p>相互訪問の機会をさらに増やしていき、建設的なネットワークづくりに心がけ、サービスの質の向上に努めたい。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務・人間関係への不安・不満が発言・相談できストレスが軽減できる環境作りに取り組んでいる。</p>		<p>特に定期人事考課時には時間を多く設け、相談出来るようにしている。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的な人事考課をもとに、自分自身で目標を設定し、振り返りながら、向上心を持って働けるよう努めている。</p>		<p>ご利用者の状態の変化に伴い、身体介助方法、ご利用者への接し方などの不安な事・分からない事がすぐに聞ける環境を作り、向上心を維持するよう その都度指導している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネージャーやご家族からは困っている事、求めている事や不安な事を傾聴し、本人自身からは利用開始後に思いや・状態・把握し、職員への申し送りを徹底している。</p>	<p>初期段階でもご利用者から聞き取れる時間を多く設け、不安の解消に努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>特に質問の多い利用料金や、介護度の区分変更については細やかに説明し、不安解消に努めている。</p>	<p>電話相談時は、まず、ご見学をして頂くよう促している。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>差し迫っているケースの相談を受けた際は、隣接する特養とも連携し、必要な援助に努めている。</p>	<p>申し込みのお問い合わせの際に、地域密着型サービスである事、認知症対応型共同生活介護である事も説明し、市外の方や認知症が無い方等へはケアマネージャーや地域包括支援センターへの相談が出来る旨説明している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>随時のご見学受け入れと、ご自宅で使用されていた家具の持ち込みを依頼し、馴染みの生活環境作りに努めている。</p>	<p>短期利用の受け入れを整備し、本入居までに体験利用が出来るよう努める。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理や衣類の修繕、洗濯物の整理等は協働し、また、喫茶時は同じテーブルを囲むなどして共に過ごしていける関係作りに努めている。作業や会話の中で生活の知恵や思い出を引き出し、一緒に楽しめる環境作りに努めている。</p>	<p>職員は食事や喫茶時は同席し、時間の共有に努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や、広報誌などで絶えずコミュニケーションを保ち、また、外出行事や施設行事にも参加の呼びかけをし、良好な関係作りに努めている。		運営の理解を得ながら、ご家族も楽しめる催しを企画し実施している。ご家族の協力の必要性を理解して頂きご利用者の生活維持を共に支えていきたい。
29 利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者・ご家族双方の意向を伺い、必要に応じて来訪の依頼や、一時帰宅を交えて従来の家族関係の維持に努めている。		常時 面会等にてコミュニケーションを図り、信頼関係作りが築いていけるように心がけている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じ、個別に対応している。		グループホームに入居している事を前面に出さず、ご家族の理解を得ながら実施している。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者の会話や様子を観察し、共同作業と一緒に取り組んで頂く・距離感を置く・その場の状況に考慮し、円滑な関係が保てるよう援助している。相性等を観察し、必要に応じて居室変更も考慮している。		リビングの席を決めるにあたり、相性や親密度を勘案しながら設定し、ご利用者同士でも支えあう関係を築いて頂いている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	希望に応じ、個別に対応している。		ご利用中の写真や思い出の品をお渡しする等、関係性を保っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>発言しやすいような言葉かけ・環境を作り、意向の把握に努めている。随時アセスメント・聞き取りにて希望や意向を伺っている。</p>	<p>訴えにくい方への代弁を見極め、職員の都合にならないよう配慮したい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>契約時や入居後のご家族の面会時等に生活歴や趣味・特技を伺い、また、ケアマネージャーにより情報を得ながらサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>毎月のユニット職員会議で見直しや情報交換を行っている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎月開催しているユニット職員会議では、最新情報の交換・共有をし、日々の状態は集約シート等で総合的な把握に努めている。</p>	<p>心身状態は、診療所とも連携し、報告・連絡・相談を定着させている。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者・ご家族の意向、毎月開催しているユニット職員会議以外にも、併設する特養の管理栄養士や診療所との連携で意見をj得て介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画の意義や必要性を研修し、ユニット職員会議にて情報・状態の変化に応じた課題やサービス内容を反映したい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>特変が生じた際は、ご利用者・ご家族、必要な関係者と話し合い、随時見直しをしている。</p>	<p>残存能力の低下・精神の不安定が生じた時には観察・検討し、計画の見直しを行っている。退院後にも病院での状態を把握し、計画の見直しをしている。事故、ひやり・ハットでの要因・改善策を介護計画に反映していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子は個別にパソコン入力し、特記事項は日誌に反映して情報の共有に努めている。</p>		<p>リビングにての食事拒否や帰宅願望などは 発言した言葉を記載し、真意を引き出し 介護計画の見直しに反映していきたい</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設する特養と連携し、契約解除された方でも円滑に次の生活の場に誘導している。</p>		<p>短期利用共同生活介護の受け入れを整備したい</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>近隣地域はもとより、他市町の文化・教育機関等の協力も得ながら支援している。</p>		<p>特養と連携にて 年に一度消防より 防火訓練・緊急時の対応・A E D研修を行っている。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>通院介助時でご家族の付き添いが難しい場合は有料ヘルパーサービスの説明・支援を行っている。</p>		<p>意向・必要性があれば支援する。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>利用者の強い希望が見られた際は、在宅復帰に向けて地域包括支援センターと協働している。</p>		<p>地域包括支援センターから問い合わせや入居申し込みがあれば、過去の実績や現在の待機者等を適切に応え、良好な関係作りに努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に協力医療機関の説明を行い、緊急搬送はご家族にて決定して頂いている。家族の協力を得て、かかりつけ医との連携を図っている。有料ヘルパーサービスの協力を得て、希望に応じた医療を受けられるように支援している。		医療連携体制を密にし、他院への通院時もスムーズに診療情報の授受を支援している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の状態・様子を観察し、併設している診療所との連携を図り、専門医の往診を支援している。		2週間に1度、定期的な往診を受け、職員からも相談出来る体制がある。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	体調不良等がみられれば直ぐに相談できる体制をとり、診療所への受診を行っている。夜間はオンコール体制をとり、協力を得ている。遠足などの外出行事にも 付き添いにて協力を得て 安全体制をとっている。		体調の変化がある場合には 報告し、連携を図っている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けて情報交換や相談に努めている。		退院のめどがつけば、病院関係者と相談・情報を得て、円滑な復帰と、リハビリ等の調整に努めている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族会等で方針を示している。併設診療所とも研修や情報の共有に努めている。		著しく状態が悪化した際は、看護師も交えてご家族に再度説明し、方針の共有に努めている
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設する診療所や、法人内研修委員会を中心とし、家族の協力の大切さ、終末期の体調の変化の様子・対応、事業所の出来る事・出来ない事の研修を行っている。		今後の変化に備えた準備をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>ご家族・スタッフへは混乱が予想される事を事前に説明し、多方面から観察する事、気づいた点を記録し情報交換・提供するように努めている。ご利用者が別の居所へ移った際も、馴染みの職員が面会に行くなどし、ダメージの軽減に努めている。</p> <p>リロケーションダメージについては、混乱が必然的なものである事をご家族・職員に説明し、</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>言葉かけには十分に注意を図って排泄・入浴時等は羞恥心に配慮し対応している。</p> <p>精神状態や状況に応じた言葉かけ・対応に配慮していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>個別に説明を行い、自己決定の支援に努めている。自己決定が難しいご利用者には、選択方法の提示・ご家族に確認し、個別対応に努めている。</p> <p>言語的な表現に頼らず、意向を汲み取るよう支援している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>出来るだけご利用者毎のペースに合わせているが、その日毎の希望に沿った支援は行えていない。</p> <p>まず、食事・入浴については1人ずつのペースに合わせられるよう努める。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>身だしなみは清潔な物をお渡しするよう心がけている。理容・美容について、希望があれば個別に支援している。個別に化粧等をされ、おしゃれを楽しまれている。家族への連絡・買い物にて化粧品等の補充を支援している。</p> <p>好みや趣味を知り、個性を尊重しご家族の協力も得ながら継続して支援する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り（野菜を洗ったり・剥く・切る・盛り付け・配膳・食器洗い・買い物の同行）と一緒に参加して役割を持つ事で活性化を図っている。参加の難しい方には味見を一緒に行っている。		行事・季節感を取り入れたメニューにて会話が増えご利用者同士のコミュニケーションが図れている。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アンケートを作成し意見の集約に努め誕生日には希望の食物を提供し好評の意見を頂いている。		ユニット会議にて好物や残される傾向がある物の情報交換を行っている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表にてパターンの把握に努めている。		失敗が続けば、データから時間帯を特定し、重点的にトイレ誘導に行く等の支援をしている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ希望に応じ、拒否されたご利用者にはタイミングを図り、再度声かけし、入浴できるよう清潔保持に努めている。		個々の好み（温度・時間）に合わせて対応している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の意向を伺い、状態・体調に応じてリビングで過ごす時間・居室で過ごす時間を見極めて休息できるよう支援している。		居室と共有スペース以外の居場所・空間作りに努める。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る力を活かし、役割を持って過せるよう支援している。		生活暦を生かした支援に努める。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向も踏まえ、必要に応じた支援をして居る。		近隣のスーパーの理解を得ながら、食材の購入時に支払い代行も依頼し、従前の生活動作延長も支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や諸条件を勘案して、日常に外出の支援をして居るが、一人ひとりのその日の希望には応じきれしていない。		希望を把握し、私物の購入等、個別の外出支援に努める。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節や時期に応じ、ご家族を交えた外出支援に努めている。		行ってみたいところの情報収集に努める。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に個別に支援している。		公衆電話への誘導や、年賀状のやりとり等、必要に応じて支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間や見学時間等は設定せず、気軽に訪問できるように配慮している。		来訪者に、ご利用者との関係は向うも、気軽に面会できるよう誘導し、必要に応じてテーブルやイスを貸し出している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修で意識を高め、理解している。日々の申し送りやユニット職員会議等で疑問点をあげ、常時振り返っている。		定義づけられた身体拘束以外にも予備軍がないか常時検討している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特に玄関は開錠するよう心がけている。居室の施錠は原則認めていない。		ご利用者の意向も伺い、施錠を希望されたら柔軟に対応している。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事以外に定期的な喫茶、リネン交換や提示巡回にて安全確認を行っている。夜間は2時間毎に巡回を行っている。		1・2階の移動時も内線などで常に連絡を取り所在確認の把握を行っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要なものでも、家庭的・日常的にある物ならば、一律に排除はしていない。利用者の著しい変化があった際には臨機応変に対応している。		ご本人・ご家族の意向を尊重しながら 転倒等の危険を予測し、生活導線の確保が必要なことを理解して頂くように支援したい
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内の事故防止委員会を中心に、再発防止に努めている。状況に応じ、居室変更等も考慮している。事故・ヒヤリハットの報告書にてユニット職員会議等で事故防止に努めている。		事故発生の可能性が高い方は、職員待機ブース前の居室に設定し、見守りを強化している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の研修委員会を中心に、各種研修を開催・参加しているも、不定期で全ての職員には至らず研修資料にて確認している。		医務との連携を図り個々の病歴に応じた対応が出来るよう随時申し送り等で説明している。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時避難マニュアルを提示し、ご利用者が全体的に移動する際は避難場所を示している。合同防災訓練等にも参加し、地域の人々との良好な関係作りに努めている。		定期に実施している避難訓練を継続し安全確保に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて家族等に説明し、理解を得ている。		転倒予防の為に歩行機能が低下する等、二次的なリスクについても説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に気付いた際には診療所に報告し、指示を仰いで、情報・対応を共有し、ご家族に報告している。		医療連携体制を密に行っている。
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設している診療所と連携し、体調・症状の変化を観察・共有している。配薬確認表を作成し、服薬チェックを行い、服薬管理に努めている。		適宜、ユニット職員会議でも最新情報の交換を行い、また、処方箋一覧表をもとに、用法や用量の確認に努めている。
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	併設する診療所と連携し、第一に自然な排便を心がけるよう配慮している。便秘傾向の方は水分摂取を促して予防に努めている。排便の確認を診療所に報告している。		自立にてトイレに行かれる方への排便有無を一日二回確認し、確認が難しい方は トイレの便器の付着等にて確認を行っている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の口腔状態や個々の力に応じた支援を心がけているも、口腔ケアは起床時・就寝前に施行している。		口腔内、義歯等の症状をご家族に報告し、診療所に連絡を取り、定期的に往診される歯科医との連携を支援している。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の観察に努め、診療所との連携にて体調の管理をし、併設の特養の管理栄養士の助言にて栄養バランスの確保を図っている。		水分補給の提供時間（食事・喫茶・入浴後）を作り、診療所からの指示や個々の体調・症状に応じて 夜間にも水分補給に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内、感染予防対策委員会を中心に 各種研修に参加し、また、診療所からの指導のもと、予防には順応に対応している。		ご利用者・職員とも うがい・手洗いの励行を徹底し、換気・加湿を行い、感染症の予防に努めて行きたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品衛生の3原則を心がけ、食材も概ね向う3日分までの買出しや、取り置き検食を実施し、毎食後の検食簿の記入を行っている。食材の賞味期限・鮮度を確認し、調理を行っている。		定期的に台所周辺の清掃を行っている。食材購入後は全て調理する日付を記入している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにベンチを配置して、憩いの場を設けている。		園芸ボランティアの協力も得、花壇を整備している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出先での写真を多く張り出し、回想や会話のできる環境を提供している。ご利用者と一緒に装飾(鏡餅・雛人形・クリスマスツリー)をし、季節を感じていただいている。隣接するマンションとも 不快な音や光がないように考慮している。		食席テーブルには 花を飾り、季節感を感じて頂いている。装飾は『施設感』を出さないよう配慮している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にてゆっくりくつろがれる時間や、ご利用者同士が居室を行き来できる環境を提供している		リビング以外にもソファやイスを配備し、居場所を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>契約時以外にも 馴染みの家具や食器を持参して頂くように依頼し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。</p>		<p>ご家族の意向で、家具が稀少な方へ、自身で作成した工作等を配置し、居心地よく過ごして頂ける環境作りに努める。</p>
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>定期的な換気以外にも必要に応じて空気の入替えを行っている。室温も随時訪室し、調整している。訪室時やご家族にも換気や、加湿の必要性を理解していただいている。</p>		<p>I S Oへの取り組みにも配慮しながら、適温の設定に心がけている。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>床面はバリアフリーで段差の解消をしている。手摺りは要所に設置し、個々の希望・状態に応じて畳部屋への意向も伺っている。</p>		<p>歩行状態が不安定な方は、リビングに近い居室を設定しつつ、機能維持の為に付き添いながら歩行を促している。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>状態・様子観察、ご家族からのアセスメント(生活歴)にて、個々の出来る事を把握し、一人ひとりの力を見出し、活性化が図れるように個々の能力に応じた援助をし、失敗や・混乱を招かないよう ユニット職員会議等にて共有し、支援している</p>		<p>生活導線を把握し、普段と異なる際は特に注意して観察している。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇作りをし、季節・自然を感じて頂けるよう工夫している。</p>		<p>近隣住民の理解を得ながら、簡単な自家栽培等も視野に入れて、活動に繋げたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全食グループホームでの調理実施で、誕生日や祝祭日は特に希望に応じた食事を提供している。
年に2回は遠方への外出行事を企画し、季節を感じて頂いたり、気分転換を図って頂いている。
入浴中止日は設定せず、出来る限り意向に沿って対応している。